

御家庭でトマトやミニトマト、ナス、ピーマン、ジャガイモなどを栽培されている皆様へ
「トマトキバガ」は、令和3年10月から国内各地域で発生が確認されており、県内でも蔓延するリスクがあります。
特に、トマト類に大きな被害をもたらす可能性があることから、
トマト産地を守るため御協力をお願いします。

被害が予想される野菜

トマト類、ナス、ジャガイモ、ピーマン、インゲンなど

トマトキバガ成虫

体長5～7mm



7mmぐらいの小さな虫で、幼虫が葉や実を食害します。

トマトキバガとは

トマトキバガとは海外から侵入し、**蔓延した場合に農作物に重大な被害を与える恐れがある害虫**として、国から「**侵入警戒有害動植物**」に指定されており、令和3年度以降発生状況調査と防除対策に取り組んでいます。

成虫は非常に小さな蛾（ガ）で、幼虫は葉に潜り、ハモグリバエ類に似た工力キ症状を示すとともに、**果実にも穴を開け、侵入**します。

地域に蔓延させないためにも早期発見と対策が重要です。**被害や虫を見つけたら、紙面下の連絡先へご連絡ください。**



食害の特徴はマメハモグリバエと異なり、葉の裏も薄皮だけになる



葉の薄皮の間に潜った幼虫



体長8mm（終令幼虫）

皆様へ3つのお願い！

- 1 この被害や虫を発見したら、下記へ御連絡ください。
- 2 加害された葉、果実や株はそのままにせず、速やかに切り取り、虫が出ないようにゴミ袋などに密封し、処分してください。
- 3 出荷販売されており、薬剤による防除などの対策が必要な場合は、下記に御連絡ください。

◎ 疑わしい蛾や症状がありましたら、ご連絡ください。

＜連絡先＞ 児湯農業改良普及センター

☎ 0983-43-2311

病害虫防除・肥料検査センター

☎ 0985-73-6670

●被害の様子

<トマト・ミニトマト>



成虫と幼虫の外観



原寸大 (A4印刷時)

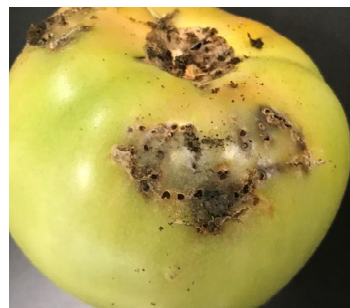


葉のエカキ症状

表裏ともに薄皮が残り、裏側からも被害部を容易に確認できます。



(参考) ハモグリバエの症状
裏側からは被害部がはっきりしません。



果実の被害

へたの部分からの侵入が多く、
へたをめくらないと見えない
場合があります。
周辺にフンが残る場合もあり
ます。



<ジャガイモ>



<ピーマン>

